

## 火打山における環境改善事業について

## 1. 概要

新潟県妙高市の火打山において、平成 28 年度から令和元年度までの 4 年間の試験を経て、令和 2 年度から良好なライチョウの生息環境回復を目指し、イネ科植物等の除去事業を行っている。令和 7 年度は 8 月 20 日～22 日に実施した。

## 2. 内容

## (1) 事業実施場所

ライチョウ平と山頂直下の 2 地域に事業区を設けており、山頂直下については令和 7 年度は胸突き八丁と呼ばれる登山道脇の事業区のイネ科除去を実施した。

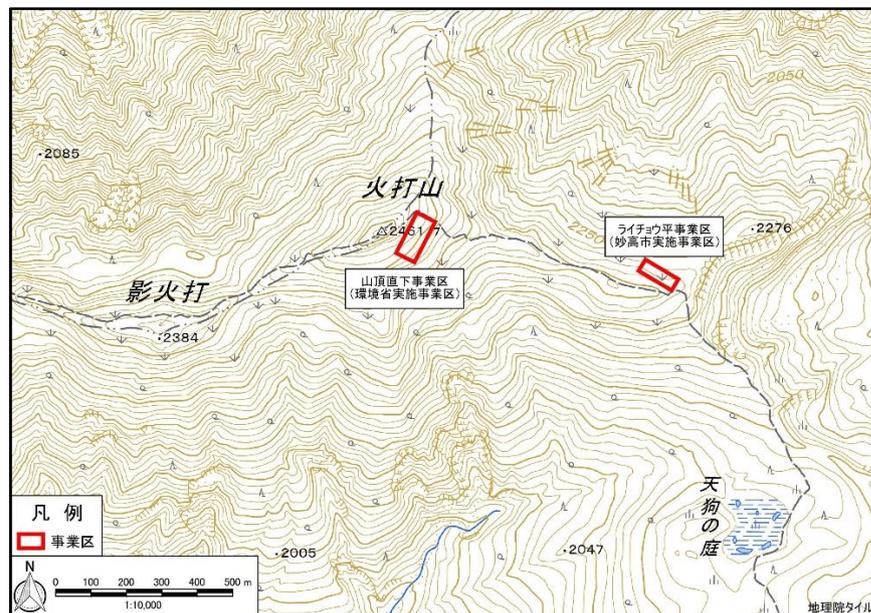


図 1. 火打山に設置した事業区

## (2) 事業実施状況

実施日時：8 月 20 日午後～22 日午前まで

実施体制：妙高市サポーターズ 23 名及び上越森林管理署、妙高市及び環境省関係者 22 名の計 45 名で実施。



写真 1 山頂下登山道脇の事業区に現れたライチョウ (2025 年 8 月 22 日)

### (3) 事業実施前との景観の変化

事業実施前の令和元年と近年の事業前後の状況を下記に整理した。いずれにせよ事業の結果は顕著に現れており、山頂直下のように初期に対応することで作業量を少なくし効果を最大限にあげることができると考えられる。

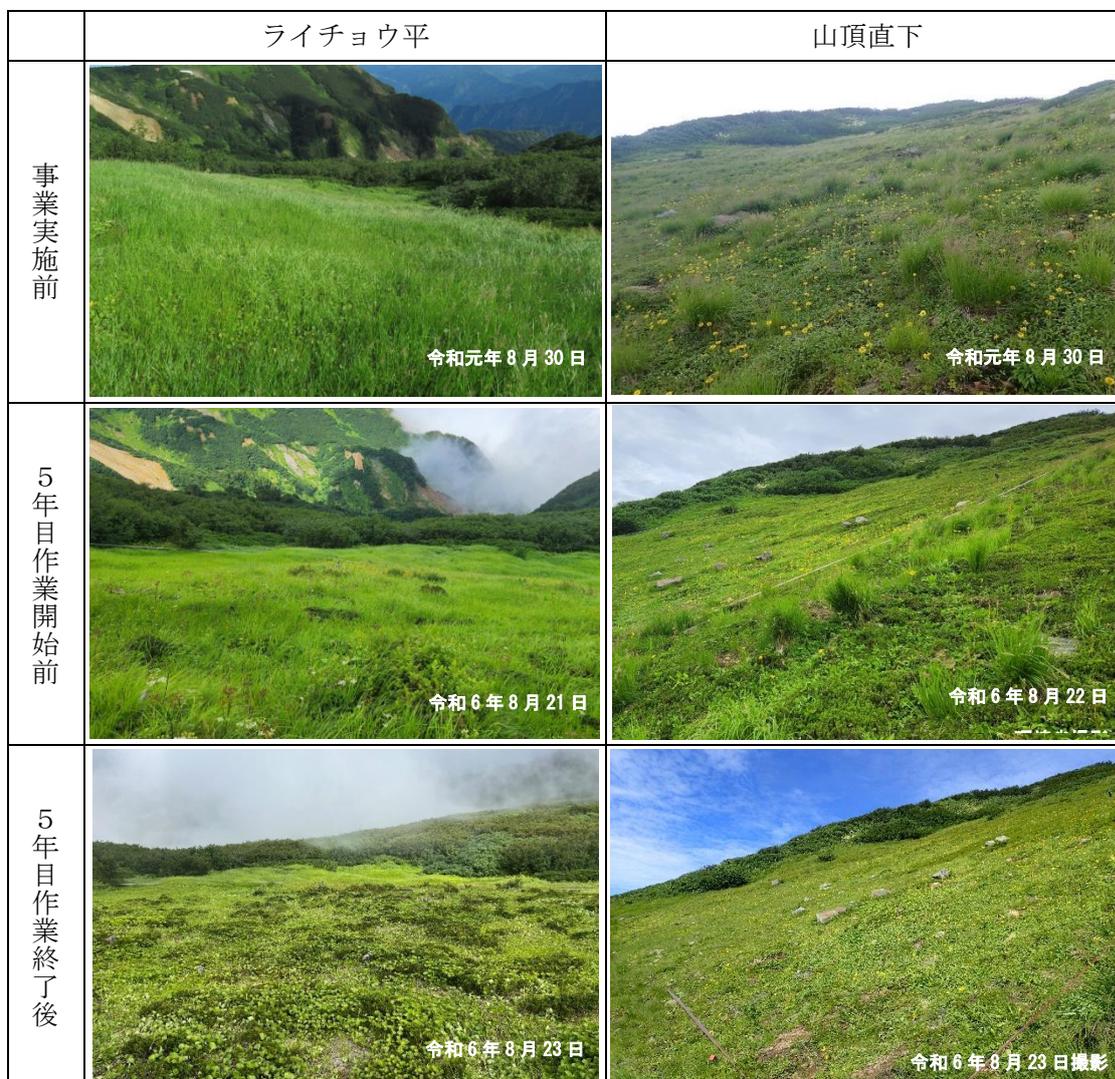


図 2 事業実施前との景観の変化

### (4) 新規事業候補地の調査

山頂直下の事業区の作業がおおよそ完了したこともあり、新たな事業区の候補地について調査を実施した。候補地は火打山山頂と影火打の中間付近の南東に位置する 40m×40m の範囲で、植物及びチョウ類の調査を実施した。ハクサンコザクラが開花しイネ科植物の繁茂はほぼみられないこと、急斜面で作業実施時の危険性が高いことから、一部、南東方向を柵から除いている。

候補地はイネ科のヒゲノガリヤスが株状に生育しており、斜面下部はやや密度が高いものの山頂直下の事業区の当初に近い生育状況である。

主な構成種は、アオノツガザクラ、ツガザクラ、ハクサンコザクラ、ウサギギク、ミヤマキンバイとなっており、山頂直下の事業区と同様のハクサンコザクラ-アオノツガザクラ群落に区分される。

また、チョウ類の調査でも対象としているベニヒカゲの確認も少なく作業実施について問題はないと考えられた。



図3 新規事業区候補位置図



写真2 斜面上部から東方向



写真3 斜面上部から南東方向



写真4 斜面上部から南方向

### 3. 令和7年度の火打山のライチョウ生息状況

令和7年のなわばり分布調査結果を示す。なわばり数は3であり、昨年引き続き過去最少となっている。

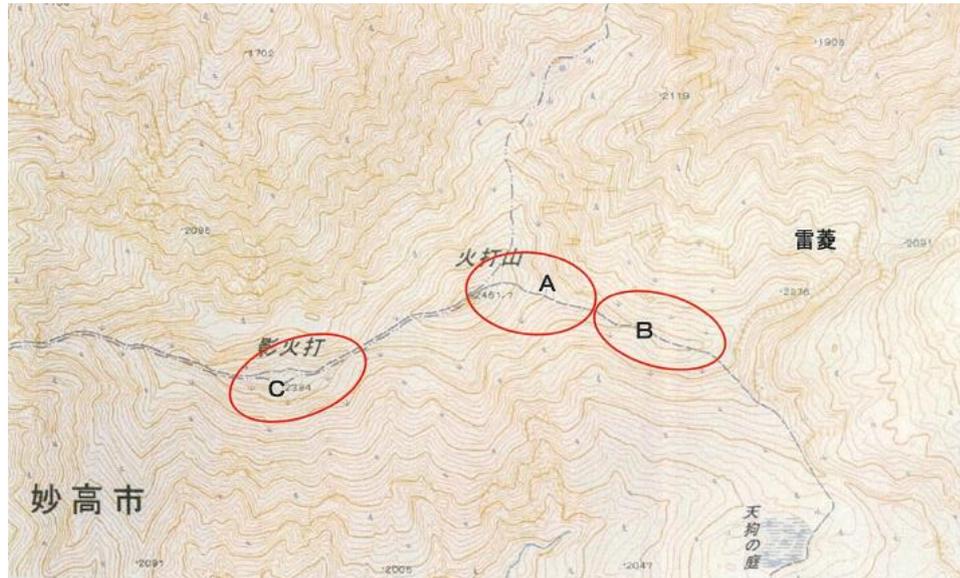


図4 令和7(2025)年火打山のライチョウなわばり分布

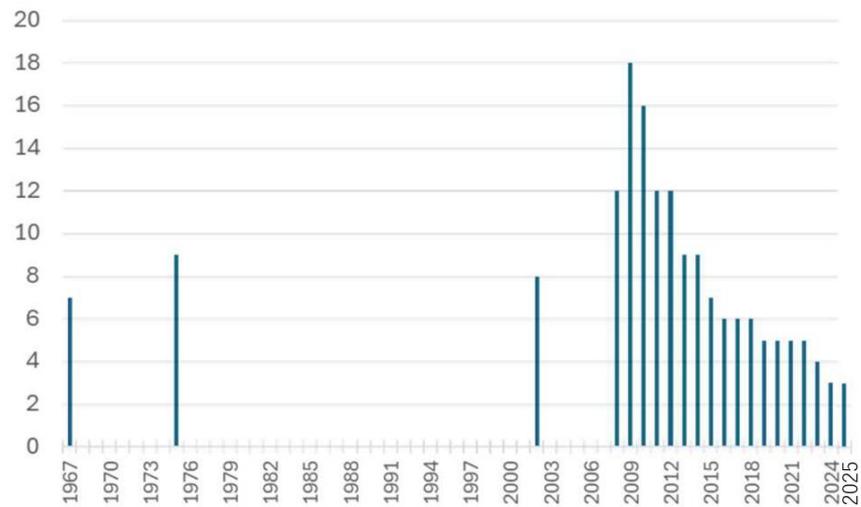


図5 火打山におけるライチョウのなわばり数の変化